

令和7年高島市教育委員会第3回臨時会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和7年8月19日（火）
開会 午前10時00分 閉会 午前10時30分
- 2 開催場所 高島市役所新館2階 教育委員会室
- 3 会議次第
教育長あいさつ
議第58号 令和8年度に小中学校および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について
- 4 出席委員
川島教育長、橋本委員、高木委員、森委員、地村委員
- 5 事務局出席者
饗庭教育総務部長、川原林教育指導部長、吉原教育総務部次長（社会教育課長取扱）、保木教育指導部次長、前田教育総務課長、保木学校教育課長、上原学事施設課長、鳥居学校教育課参事、林教育総務課参事、中村教育総務課主任
- 6 会議を傍聴した者 0人
- 7 議事の経過 別紙のとおり

議事の経過

開会 教育長が第3回臨時会の開会を宣言

会議録の署名委員の指名 橋本委員、森委員

議題の公開／非公開 全て公開

議第58号 令和8年度に小中学校および小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

【説明】 保木学校教育課長

本件は、令和8年度に小中学校および小中学校特別支援学級において使用する教科用図書の採択について議決を求めるものである。選定した教科用図書は、高島市教科用図書選定委員会から答申を受け、採択案としたものである。

まず、令和8年度に小中学校において使用する教科用図書について説明する。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定等に基づき、小学校においては、令和5年度に、中学校においては、令和6年度に採択された教科用図書と同一のものとする。

次に、令和8年度に小学校の特別支援学級において使用する教科用図書について説明する。

特別支援学級の教科用図書は、通常の学級で使用されている文部科学省検定教科書に加え、文部科学省著作本、学校教育法附則第9条に規定する一般図書の3種類ある。

教科ごとに一般図書の選定理由について説明する。

「国語」は、ひらがな、カタカナ、漢字などが、児童の発達や特性に合わせて、段階的に指導できるように工夫され、児童の関心や意欲を高めることができる図書を選定している。カード類については、文字に興味をもち、繰り返し読んだり言葉づくりをしたりすることができ、「物と文字」、「事象と文」を関連付けて学習できるため、入門期の教科用図書として有効であると考える。

「書写」は、一般図書として学習カード類を選定している。カードの上から直接フェルトペンで書いたり、くばんだ文字を指で触ったりすることで文字の形を整えて書く反復練習が可能である。

「社会」および「地図」は、児童の生活経験や知識の幅、内容等を考えて選定している。仕事に関する内容については、児童が自分の適性や新たな一面を知り、将来の仕事を考える時の一助となるよう構成されている図書を選んでいる。歴史については、児童が迷路や人探しをしながら、歴史への興味、関心が高まるよう工夫され、人々、暮らし、建物、服装、農具、工具等から時代の特徴がよくわかるように描かれている図書を選んでいる。産業や暮らしについては、各都道府県の特徴や県庁所在地、地域の特産物等がわかるよう図や写真が多く用いられた図書を選んでいる。

「算数」は、基礎的な算数の概念を、日常生活と結びつけながら、系統的に学習できるように構成され、また、具体物の挿絵があり、文章表現がわかりやすく、発達段階に応じて指導できるよう工夫されている図書を選定している。

「理科」は、生き物や自然、実験や観察に興味のもてる内容の図書を選定している。科学実験の本については、写真やイラストで実験の方法がわかりやすく表現されているとともに、身の回りの物を使って実験しながら、科学的な興味を育て知識を得ることができるように工夫されている図書を選んでいる。

「生活」は、生活単元学習や自立活動などの時間にも活用できそうな図書を選定している。

「音楽」は、交流授業に参加しない児童が自分の教室でいつでも音楽に親しめるよう、幅広く選曲され、手遊びなどをしながら歌に親しむことができる図書を選定している。

「图画工作」は、検定本にも造形遊びが多く掲載されているが、技能的に未熟で支援を要する児童もいるため、身近な材料を使って、児童が一人でも楽しみながら制作活動ができる図書を選定している。

「家庭」は、日常生活の様々な場面が網羅され、衣食住など生活に必要な基礎的知識、技能、態度が身につくようにまとめられている図書を選定している。

「保健」は、健康の保持、環境の把握、身体の動きの理解等に通じる図書を選定している。日常的に起こる身近なのがについて、対処の仕方がわかるものや、男女の体の仕組みについてわかりやすく学べるようになっている。

「外国語」は、いつでも外国語に親しめる図書を選定している。日常生活でよく使われる、身近で簡単な単語や文を付属のCDやタッチペンで繰り返し聞いて、自分で発音を練習できるよう工夫されている。

「道徳」は、日常生活と照らし合わせながら考えられる物語文を扱った図書と、社会生活に必要な言語活動の充実が図れる言葉の絵本を選定している。

次に、令和8年度に中学校の特別支援学級において使用する教科用図書について説明する。

小学校の特別支援学級と同様に、文部科学省検定教科書、文部科学省著作本、一般図書の3種類ある。文部科学省著作本のうち、☆☆☆☆☆の著作本については、より発達段階に応じて学習できるよう工夫され、社会に出たときにも役立つ内容が多く盛り込まれており、比較的知的障害の軽い生徒には効果的であると考える。

教科ごとに一般図書の選定理由について説明する。

「国語」および「書写」は、生徒の言語能力には差があるため、多種多様な図書を選定している。新たに追加した「ひとりだちするための国語ワーク2」は、「聞く力」「話す力」をワーク形式で学ぶことにより、コミュニケーション能力の基本を体得できるような編集になっている。「聞く力」「話す力」の基本や応用から、日常の場面や仕事の場面のトレーニングもできるので、総合的な学習の時間でも活用できる。また、解答例もあるので、生徒自身で確認して学びを進めることができる。

「社会」および「地図」は、写真やイラストを豊富に掲載しており、社会の様子やできごとを理解しやすい図書を選定した。「改訂新版くらしに役立つ社会」と「ひとりだちするための社会」は、生活場面と結びつけながら社会参加するための基礎知識が学べるようになっている。

「数学」は、国語科と同様に、生徒の能力に応じて幅広く選択できるように選定した。「ゆっくり学ぶ子のための「さんすう」」は、文字が大きく、図も適切に挿入されていて、学習意欲のもてるレイアウトとなっている。また「くらしに役立つ数学」と「ひとりだちするための算数・数学」は、「基礎編」と「生活編」に分かれており、日常生活や社会生活、将来の職業生活の充実につながるような内容になっている。

「理科」は、生活場面で出会う具体的なものが教材として取り上げられている図書を選定した。新たに追加した「ひとりだちするための理科」は、「生物・生命」「地球・自然」「物資・エネルギー」の節に分けてバランスよく取り上げられており、全ての単元において、問題提起、仮説、実験、結論の流れで構成されており、パターン化した学習の展開に有効であると考える。

「音楽」で選定した「くらしに役立つ音楽」は、歌唱・器楽・創作・鑑賞の各分野がバランスよく取り上げられており、生徒の興味関心に合わせて教材の選択ができるような内容になっている。

「美術」は、新たに「小学館の図鑑NEOアート図解はじめての絵画」を追加した。鑑賞のポイントが示されているため、指導者もねらいに適した教材を選ぶことが容易である。また絵画の着目点や比較対象が必要な箇所には矢印や吹き出しなどで示され、どの部分を見ればよいか分かりやすくなっている。

「保健体育」では、特に「改訂新版くらしに役立つ保健体育」は、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康に暮らしていくことの大切さを学習できるように工夫されている。また、日常生活の中で、心身の健康を維持するために必要な知識を学ぶことができる。

「技術・家庭」では、特に、「改訂新版くらしに役立つ家庭」は、実際の生活に結び付く題材が取り上げられ、生活するために必要な知識や技能が身につくように工夫されている。また、契約や金融トラブルについてもとりあげられており、安全に生活するための知識を学ぶことができる。

「英語」は、楽しくコミュニケーションをとったり、身近なものを英語で表現したりすることができるよう、会話場面やイラストなどが多く掲載されている図書を選定した。

「道徳」は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと、道徳的諸価値についての理解を図ること、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てるここという目標を踏まえ、生徒に応じて選択できるような図書を選定している。特に、「くらしに役立つソーシャルスキル」は、道徳的な事柄だけでなく、自己表現、相手との関係の築き方など、生活で必要となる様々な内容が取り上げられている。また、社会の中で必要とされるルールやマナーを知ることができるとともに、実際にできるようになるためのワークが設定されており、自立活動や進路学習などの関連も期待できる。

【質疑等】

○森委員

特別支援学級において使用する教科用図書について、年度途中で教科用図書を変えて欲しいと要望があった場合は対応できるのか。

○保木学校教育課長

年度途中で教科用図書を変更することはできないが、学校備品として購入した教科用図書であれば、貸与することはできる。

○地村委員

こどもたちの多様なニーズや背景に合わせて、指導の仕方や授業を見直していく必要があると思うが、教科用図書を選定するにあたり、見直した点はあるか。

○保木学校教育課長

継続して学ぶことができるように、昨年度と同様の教科用図書を選定するとともに、発達に合わせて、より幅広い教科用図書を選択できるようにいくつか一般図書を追加した。

○橋本委員

翌年度に在籍する特別支援学級の児童生徒を想定して、教科用図書を選定されたと思うが、急な転校があった場合は、対応できるのか。

○保木学校教育課長

年度途中の転校は前の学校で使用していた教科用図書を使用することになるが、年度当初の急な転校に関しては、幅広く教科用図書を選定しているので対応できると考える。

○高木委員

各学校では、特別支援学級の児童生徒一人ひとりに合わせた教科用図書を選んでいると思うが、年度末にその児童生徒に適した教科用図書であったかなど振り返りはするのか。

○鳥居学校教育課参事

学校では、次年度の教科用図書を選ぶにあたっては、現在使用している教科用図書の理解度などから総合的に判断して、どの教科用図書を使用するか決定している。

教育委員会には、教科用図書を使用した結果の報告はないが、特別支援学級の教科用図書は、毎年選定をするので、その選定委員会の中で議論になることはあると思う。

○森委員

一般図書の中には、学校で教科用図書として使用するには、タイトルの表現が気になるものがあった。

【採 決】 可決

閉会 教育長が第3回臨時会の閉会を宣言